

TOKYO FORWARD 2025 文化プログラム ろう者と聴者が遭遇する舞台作品「黙るな 動け 呼吸しろ」 2/10から出演者オーディション募集開始

ろう者と聴者の協働による先進的な舞台創作に挑む出演者を広く募集！



黙るな 動け 呼吸しろ

黙るなと雲がゆっくりと
誰もが気付かないかのように動き、空に伝えている。

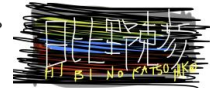
ちぎれては繋がりのまにかいなくなる。
空には雲がよく似合う。

闇夜にも空はあり雲が動いている。

空もいつも動いている。

雲も空も黙ってはいない。

いつも呼吸している。



東京都、公益財団法人東京都歴史文化財団及び国立大学法人東京藝術大学は、2025年11月のデフリンピック開催にあわせ、「ろう者とろう文化に対する社会的認知」と「ろう者と聴者が互いに共通理解を図ること」を目的とした、**ろう者と聴者が遭遇する舞台作品「黙るな 動け 呼吸しろ」**を、同年11月29日（土曜）に東京文化会館大ホールで上演します。

本舞台作品は、世界陸上とデフリンピックが開催される2025年に実施する3つのアートプロジェクト「TOKYO FORWARD 2025 文化プログラム」の一つで、ろう者にとってのオンガク、聴者にとっての音楽の本質を互いの交流の中で探究し、言葉や文化が異なる両者が創作の場で遭遇していきます。そのプロセスをベースに創り出されていくオリジナルストーリーを、日本手話と日本語によって上演する、世界初演の作品です。

この度、ろう者と聴者の協働による先進的な舞台創作に挑む方を広く募るため、**出演者オーディションを開催することとなりました。「ろう者のまち」の住人たちを20名程度、「聴者のまち」のメインキャストを3名程度をそれぞれ募集します（「聴者のまち」エキストラオーディションは別途実施）。応募条件に合う方ならどなたでもご応募いただけます。**

出演者オーディション募集概要

● 応募期間：2月10日（月曜）10：00～3月16日（日曜）23：59 【ろう者のまち】 【聴者のまち】

【「ろう者のまち」の住人たち】

- 応募資格：10歳以上、性別・演技経験・国籍不問 など
- 募集人数：20名程度

【「聴者のまち」の住人（メインキャスト）】

- 応募資格：18歳以上、性別・国籍不問、舞台出演経験があり、身体表現に興味がある方 など
- 募集人数：3名程度



【取材に関する問合せ】

TOKYO FORWARD 2025 文化プログラム ろう者と聴者が遭遇する舞台作品「黙るな 動け 呼吸しろ」

PR事務局：TEL：080-3559-6924 / FAX：06-6449-9500 / E-mail：pr@duk-tokyoforward2025.jp

【事業に関する問合せ】

東京都生活文化スポーツ局文化振興部企画調整課 TEL：03-5000-7229

公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京 事業調整課 TEL：03-6256-8435 / FAX：03-6256-8829

E-mail：duk-info@artscouncil-tokyo.jp

出演者オーディション応募要項

ろう者と聴者が遭遇する舞台作品「黙るな 動け 呼吸しろ」は、ろう者のオンガク、聴者の音楽の本質を互いの交流の中で探究し、言葉や文化が異なる両者が創作の場で遭遇していきます。そのプロセスをベースに創り出されていくオリジナルストーリーを日本手話と日本語によって上演します。

今回の募集では、「ろう者のまち」の住人たち、「聴者のまち」の住人のメインキャストをそれぞれ募集します。世界初演となる本作品に共に挑んでいただける意欲のある方からのご応募をお待ちしております。

【応募方法】

「ろう者のまち」の住人たち

<https://ws.formzu.net/dist/S481365392/>

「聴者のまち」の住人（メインキャスト）

<https://ws.formzu.net/fgen/S344137639/>

以降の応募要項をご確認の上、上記WEBフォームよりご応募ください。

【ろう者のまち】



【聴者のまち】



応募期間：2月10日（月曜）10：00～3月16日（日曜）23：59

【「ろう者のまち」出演者募集内容】

1) 募集役柄・人数

「ろう者のまち」の住人たち 20名程度

2) スケジュール・会場

【稽古】

①9月22日（月曜）～10月31日（金曜）

平日：18:00～21:00／土日：日中の時間帯で3時間程度、週2日～3日予定

②11月12日（水曜）～24日（月曜）

平日：18:00～21:00／土日：日中の時間帯で3～5時間程度、週5日予定

会場：東京都内（予定）

【ホールリハーサル・本番】

11月25日（火曜）～29日（土曜）9:00～21:00

会場：東京文化会館 大ホール

※ホールリハーサル・本番期間は、原則、終日スケジュールの確保をお願いします。

※本番は1回公演を予定しています。

※上記日程で、シーン別にスケジュールを組んでお伝えします。

①・②の稽古期間で参加が難しい日時やご都合がある方は、応募時に必ずご記入ください。

（例：○月○日～○月○日NG／○曜日はNG／土日○時～○時はNG等）。

※役柄に応じて、追加の稽古等参加日程が変更になる場合があります。

※未成年の参加時間は、原則、20:00までとなります。

※上記期間前に、顔合わせや撮影、ワークショップ、追加の稽古等が入り、参加日程が変更になる場合があります。

3) 応募条件

・ろう者・難聴者

・年齢10歳以上（2025年9月22日時点）*1

・性別、演技経験、国籍は問いません。*2 但し、日本手話と日本語によって上演する作品のため、原則として日本手話を中心に意思疎通ができる方。

・資料共有等の連絡があるため、日本語でのメール連絡が可能な方。

（次頁へ続く）

3) 応募条件（続き）

- ・稽古対象期間のスケジュール調整が可能で、休まずリハーサルと本番に参加できる方。
 - ・上記条件を満たしていれば、個人・事務所に所属している方いずれも応募可能です。
※事務所に所属されている方は、ご応募前に事務所の許可を得てください。
 - ・ろう者と聴者の協働制作過程の記録を行い、上演前から協働のモデルケースとして公式ホームページやSNS等で順次発信する本作の趣旨にご同意・ご協力いただける方。
- * 1 2025年9月22日の時点で10歳以上の方。応募締め切り時点（3月16日時点）で未成年（18歳未満）の方は、審査の過程で保護者の方の同意書を提出いただきます。
- * 2-1 2025年9月22日～11月30日までの期間、日本国籍・日本に滞在する在留資格を有する方。
- * 2-2 保護者や同伴者等は、必要に応じてリハーサルおよび本番中は別場所での待機となります。

4) 出演料

- ・既定の出演料をお支払いします。

5) 応募の際の記入項目（応募フォームに従ってご入力ください）

- ・氏名、生年月日、連絡先（住所・メールアドレス）
※保護者・介助者がオーディション・リハーサルに同行する場合は、その氏名、連絡先もご入力ください。
- ・ろう者／難聴者／盲ろう者
※手話のレベルを教えてください。
※聴カレベルを教えてください。
- ・身長、体重、性別（男・女・答えない）
- ・写真 上半身（肩から上）と全身
- ・経歴（書式自由）
※舞台や映像等での出演作品、レッスン歴・受賞歴等のある方は具体的にご記載ください。
※アピールしたい経歴、特記事項等がある場合はご記載ください。
- ・応募動機 400文字以内（書式自由）／またはYouTube等のリンクで2分以内の手話動画
- ・連絡事項
※参加にあたり、サポートや配慮（例：車椅子、バリアフリートイレ等）が必要な場合はお書きください。

【「聴者のまち」出演者募集内容】

1) 募集役柄・人数

「聴者のまち」の住人たち（メインキャスト） 3名程度

※2025年夏には、「聴者のまち」の住人エキストラ（演技経験不問）のオーディションを実施する予定です。

2) スケジュール

【プレ稽古】

5月初旬、6月に5～10回程度プレ稽古を予定

会場：東京都内（予定）

【稽古】

①9月22日（月曜）～11月11日（火曜）週2日～4日予定

②11月12日（水曜）～24日（月曜）週5日～6日予定

会場：東京都内（予定）

【ホールリハーサル・本番】

11月25日（火曜）～29日（土曜）9:00～21:00

会場：東京文化会館 大ホール

※ホールリハーサル・本番期間は、原則、終日スケジュールの確保をお願いします。

※本番は1回公演を予定しています。

2) スケジュール（続き）

- ※プレ稽古および稽古期間①②で参加が難しい日時やご都合がある方は、応募時に必ずご記入ください。（例：〇月〇日～〇月〇日NG／〇曜日はNG／土日〇時～〇時はNG等）。
- ※上記期間前に、顔合わせや撮影、ワークショップ等が入る可能性があります。

3) 応募条件

- ・年齢18歳以上60代程度（2025年9月22日時点）
 - ・性別、国籍は問いません*。但し、日本手話と日本語によって上演する作品のため、原則として日本語を中心に意思疎通できる方。
 - ・舞台出演経験があり、身体表現に興味がある方（例：俳優、ダンサー、音楽演奏等）
 - ・「プレ稽古」「稽古」対象期間のスケジュール調整が可能で、休まずリハーサルと本番に参加できる方。
 - ・上記条件を満たしていれば、個人・事務所に所属している方いずれも応募可能です。
※事務所に所属されている方は、ご応募前に事務所の許可を得てください。
 - ・ろう者と聴者の協働制作過程の記録を行い、上演前から協働のモデルケースとして公式ホームページやSNS等で順次発信することにご同意・ご協力いただける方。
- * 2025年9月22日～11月30日までの期間、日本国籍・日本に滞在する在留資格を有する方。

4) 出演料

- ・既定の出演料をお支払いします。

5) 応募の際の記入項目（応募フォームに従ってご入力ください）

- ・氏名、生年月日、連絡先（住所・電話・メールアドレス）
- ・身長、体重、性別（男・女・答えない）
- ・写真 上半身（肩から上）と全身
- ・経歴（書式自由）
※舞台や映像等での出演作品、レッスン歴・受賞歴等
※アピールしたい経歴、特記事項等がある場合はご記載ください。
- ・応募動機 400文字以内（書式自由） / またはYouTube等のリンクでの3分以内の動画提出も可
- ・連絡事項
※参加にあたり、サポートや配慮（例：車椅子、バリアフリートイレ等）が必要な場合はお書きください。

■ 選考スケジュール（「ろう者のまち」・「聴者のまち」共通）

- 2月10日（月曜） 募集開始
- 3月16日（日曜） 応募締切
- 3月30日（日曜）～31日（月曜） 一次審査（書類）の結果通知（予定）
- 4月9日（水曜）～13日（日曜） 二次審査（面談・実技）東京都内（予定）
- 4月28日（月曜） 最終選考結果発表

- ※応募時に二次審査の参加可能日・可能時間を全てご記入ください。
- ※やむを得ない事情等によりメール以外の通知をご希望の方は、応募時にその旨ご記載ください。
- ※一次審査の際、メールや電話、ビデオ通話等で稽古本番の参加にあたって、参加の意欲及び個々に配慮すべき事情があるか等のヒアリングを行う場合があります。
- ※二次審査は、書類による一次審査及び上記ヒアリングを通過された方にメールにてご案内いたします。
- ※二次審査は、上記5日のうちいずれか1日～2日程度を予定しています。

【オーディションに関するお問合せ】

TOKYO FORWARD 2025 文化プログラム ろう者と聴者が遭遇する舞台作品「黙るな 動け 呼吸しろ」

運営事務局

メールアドレス duk.tokyoforward2025.info@gmail.com

電話 050-5369-5637（平日12:00～18:00）

公演概要

作品タイトル：TOKYO FORWARD 2025 文化プログラム ろう者と聴者が遭遇する舞台作品「黙るな 動け 呼吸しろ」

公演日：2025年11月29日（土曜）

会場：東京文化会館 大ホール

プロジェクト概要：ろう者と聴者、それぞれ言葉や文化が異なる表現者たちが出会い、前代未聞の舞台制作へと挑みます。

クリエイションメンバー：

総合監修 日比野克彦 / 構成・演出 牧原依里 / 演出・出演 島地保武 / ドラマトゥルク 雫境・長島確
出演 今井彰人・緒方れん・佐沢静枝・横尾友美 / オンガク・クリエイションスタッフ 西脇将伍
ステージング・ディレクター 中村容 / 音楽監修 福中冬子 / 舞台美術 原田愛 / 照明 木藤歩
音楽 小野龍一・井川丹 / 舞台映像 栗山聡之 / 舞台監督 山口英峰

主催：東京都、公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京、国立大学法人東京藝術大学

公式サイト：<https://duk-tokyoforward2025.jp/>

公式YouTube：<https://www.youtube.com/@duk-tokyoforward2025/>

公式Instagram：https://www.instagram.com/duk_tokyoforward2025/



黙るな 動け 呼吸しろ

黙ると雲がゆっくりと
誰もが気付かないかのように動き、空に伝えている。

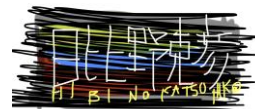
ちぎれては繋がりのまにかいなくなる。
空には雲がよく似合う。

闇夜にも空はあり雲が動いている。

空もいつも動いている。

雲も空も黙ってはいない。

いつも呼吸している。



■「TOKYO FORWARD 2025 文化プログラム」について

世界陸上・デフリンピックが東京で開催される2025年に、東京2020大会のレガシーを継承・発展させて展開する「多様な参加者とつどい・つながり・つくりあげる」3つのアートプロジェクト。

「まつり」をテーマとした「TOKYO わっしょい」、ろう者と聴者が遭遇する舞台作品「黙るな 動け 呼吸しろ」、東京2020パラリンピック開会式のレガシーを受け継ぐ新作公演「TRAIN TRAIN TRAIN」を通し、東京の持つ芸術文化の魅力を発信し、共生社会の実現に向けた歩みを進めるとともに、両大会を芸術文化を通じて盛り上げます。

<公式サイト>

https://www.seikatubunka.metro.tokyo.lg.jp/bunka/bunka_jigyoku/2025art-program.html

【取材に関する問合せ】

TOKYO FORWARD 2025 文化プログラム ろう者と聴者が遭遇する舞台作品「黙るな 動け 呼吸しろ」

PR事務局 TEL：080-3559-6924 / FAX：06-6449-9500 / E-mail：pr@duk-tokyoforward2025.jp

【事業に関する問合せ】

東京都生活文化スポーツ局文化振興部企画調整課 TEL：03-5000-7299

公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京 事業調整課 TEL：03-6256-8435 / FAX：03-6256-8829

E-mail：duk-info@artscouncil-tokyo.jp

■制作コアメンバーのプロフィール



総合監修 日比野 克彦 (ひびの かつひこ)

■プロフィール

1958年岐阜県生まれ。

東京藝術大学に在学していた80年代前半より作家活動を開始し、社会メディアとアート活動を融合する表現領域の拡大に大きな注目を集める。その後はシドニー・ビエンナーレ、ヴェネチア・ビエンナーレにも参加するなど、国内外で個展・グループ展、領域を横断する多彩な活動を展開。

また地域の場の特性を生かしたワークショップ、アートプロジェクトを継続的に発信。現在、岐阜県美術館、熊本市現代美術館にて館長、母校である東京藝術大学にて1995年から教育研究活動、2022年から学長を務め、芸術未来研究場を立ち上げ、現代に於けるアートの更なる可能性を追求し、企業、自治体との連携なども積極的に行い、「アートは生きる力」を研究、実践し続けている。



構成・演出 牧原 依里 (まきはら えり)

■プロフィール

作品形態は映像、パフォーマンスなど多様だが、その作品から生まれる現象を可視化する装置を提供することで、私たちの共通性と相違性を探り続けるとともにこの世界の社会構造を浮かび上がらせる試みを行なっている。

映画作品にろう者の「音楽」をテーマにしたアート・ドキュメンタリー映画『LISTEN リッスン』(2016)を零境

(DAKEI)と共同監督、第20回文化庁メディア芸術祭 アート部門 審査員推薦作品、第71回毎日映画コンクール ドキュメンタリー映画賞ノミネート。他『田中家』(2021)、演劇作品に『聴者を演じるということ 序論』(2023)等。恵比寿映像祭2025 コミッション・プロジェクト ファイナリストに選出。株式会社博報堂DYアイ・オーフェロー。



演出・出演 島地 保武 (しまじ やすたけ)

■プロフィール

2006～15年ザ・フォーサイス・カンパニー (フランクフルト) に所属。2013年に酒井はなのユニット「Altneu」を結成。資生堂第七次椿会メンバーに選出され、パフォーマンスに加えインスタレーション作品を展示。愛知県芸術劇場製作で環ROYと共作共演の『ありか』で国内外をツアー。フランス国立シャイヨー劇場のレジデンスプログラム (ファブリック・シャイヨー) に選ばれ滞在制作をし『Oto no e』を創作。谷桃子バレエ団、井上バレエ団、新国立劇場バレエ研修所、K-BALLET ACADEMYに振付。石井みどり、折田克子、佐多達枝、笠井叡、森山開次、串田和美、長塚圭史、中村蓉、マリーナ・マスカレルなどの作品に参加。衣装家ひびのこづえ、現代美術家さわひらきとコラボレーションもしている。DaBYゲストアーティスト、K-BALLET ACADEMY ゲスト講師、MIHO BALLET SCHOOL 講師。



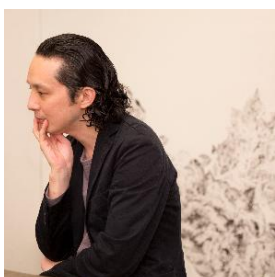
ドラマトゥルク 零境 (だけい) ★ドラマトゥルク=演出家に助言やサポートをする役割

■プロフィール

聾 (ろう) の舞踏家。

1996年～2001年日本ろう者劇団に在籍。1997年故鶴山欣也氏 (舞踏工房 若衆・主宰) の誘いを受けて舞踏を始め国内および欧米、南米で活動する。2000年にユニット・グループ「零」を旗揚げ、国内外で公演、ワークショップを展開。2013年アニエス・トゥルブレ (アニエスパー) 監督の映画『わたしの名前は…』に出演。2016年牧原依里との共同監督映画『LISTEN リッスン』を制作。他に小野寺修二氏の演出や演劇、人形劇などの舞台にも出演。

2019年新たに身体表現ユニットグループ「濃淡 (NOUTAN)」を結成。https://www.noutaninonline.com



ドラマトゥルク 長島 確 (ながしま かく)

■プロフィール

舞台字幕や上演台本の翻訳から劇場の仕事に関わり始め、やがて演出家や振付家の創作のパートナーであるドラマトゥルクとしてさまざまな舞台芸術の現場に参加。劇場のアイデアやノウハウを劇場外に持ち出すことに興味をもち、アートプロジェクトにも積極的に取り組む。2018、20年フェスティバル/トーキーディレクター、その後23年まで東京芸術祭のディレクションに関わる。主なプロジェクトに「アトレウス家」シリーズ、「つくりかた研究所」、「← (やじるし)」、「まちと劇場の技技 (わざわざ) 交換所」など。

訳書にベケット『いざ最悪の方へ』、『新訳ベケット戯曲全集』(監修・共訳)、フォッセ『ヨン・フォッセ1 名前/スザンナ/ぼくは風』(共訳)ほか。東京藝術大学大学院国際芸術創造研究科 准教授。